



平城京遷都1300年祭が成功裡に終わり、奈良県が久しぶりに脚光を浴びました。今年はこの流れを生かせるかどうか、まさに本県の将来を左右する大事な年です。

そのために、本県が戦略をもって、いかに政策を立案し、実行に移すかが大きな力キを握るでしょう。

NPO、企業、行政がそれぞれの特徴や持ち味を生かした「協働」により、本県の地域資源を再認識し、それらを

私は、まちづくりをはじめ、環境や国際交流、人権などの分野ごとの様々な取り組みにおいて、今後の方向性として、多くの事業で「協働」の形態が望ましいと考えています。

協働とは、一言で言うと、ひとつの事業において、同じ内容の業務を分担するのではなく、それぞれの特性や強みを生かした違う内容で業務を役割分担して作り上げることです。

例えば、行政は市の広報で

### 様々な環境NPO①

## 行政と協働しない考え

活用することにより国内外からの多くの来県者を迎え入れるような土壌を作っていく、1300年前の都があった時代の「日本の心」を感じる、「大和は国のまほろば」の再来を期待したいと思っています。

幅広く情報を発信することができます。これは行政の強みです。一方でNPOは組織のもつ専門性で専門分野の講師の選定や地域ニーズの情報提供、さらには、ボランティアによる人の協力などがあげら

れます。もちろん、ドイツでもNPOと行政との協働は積極的に進められています。しかしながら考え方は多様ですので、協働を望まないNPOもドイツにはあります。今回は、40万人以上の会員で構成するドイツ最大級の「協働」を行わない環境NPOであるBUND（ドイツ自然環境保護連盟）を紹介します。

BUNDは、1974年から75年にかけて、フライブルグを囲む黒い森（シュバルツバルト）とボーデン湖畔を中心に活動していた二つの自然保護グループと原子力発電所

建設に反対していたフライブルグ環境アクションという組織が、行政に対して大きな影響力を持つために合併し、新しい組織として誕生しました。

その後、16の州に支部がつけられ、さらにその下部組織として、郡に23カ所、そして地域に150カ所の支部を作って活動しています。

BUNDは、過去数回にわたり本誌で紹介させていたいたNABUと比べると比較的历史の浅い団体ですが、その会員規模は47万人を超えるまでになり、現在は連邦レベル、地域レベルだけではなく、国際的なレベルにおいても積極的に活動を展開しており、国内外の環境政策に多大な影響力を持つようになっています。

（社団法人まちづくり国際交流センター理事長）

|| 毎月第2、第4、第5水曜日掲載 ||

### Die Atomenergie

Großdemonstration  
Campact mit BUND,  
Greenpeace und vielen  
anderen Verbänden

50.000 Menschen

In Frankfurt  
Fortsetzung



5万人を集めた環境NPO「BUND」の集会の様子